

TOTO

腰掛式便器

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

安全に関するご注意 (安全のために必ずお守りください)

施工の前に、この「安全に関するご注意」をよくお読みのうえ、正しくお取り付けください。この説明書では、商品を安全に正しくお取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようにになっています。

表示	意味	
⚠ 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。	

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかる拡大損害を示します。お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	は、してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「禁止」を示します。	は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。
--	--------------------------------------	---

⚠ 注意

 禁止	便器に強い力や衝撃を与えない
	便器が破損してけがをしたり、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
 必ず実行	異物が便器に詰まった際には、排水管内へ押し出さない
	排水管内で異物が詰まり、建物全体に損害を与えるおそれがあります。
 必ず実行	設置工事に使用する部品は必ず付属部品および指定部品を使用する
	正常な取り付けができなくなる可能性があります。
 必ず実行	設置工事は、この説明書に従って確実に行う
	故障や水漏れの原因になります。

同梱部品

※部品があるか、下記を参照して確認してください。

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

便器本体	排水アジャスター	
	新設	リモデル
	便器接続部 (ゴムジョイント付き) (1個)	フランジ接続部 (1個)
	便器接続部 (ゴムジョイント付き) (1個)	便器接続部 (ゴムジョイント付き) (1個)
	横引管 (1個)	横引管 (1個)
	フランジ接続部 (1個)	フランジ接続部 (1個)
固定金具類	Pシール	その他
固定片 (1個)	新設	リモデル
Tボルト (2本)	(1個)	(1個)
木ねじ (固定片用) (φ5×50:2本)	樹脂フランジ用	金属フランジ用 樹脂フランジ用
木ねじ (便器接続部用) (φ5×50:2本)	化粧キャップ類	
	化粧キャップ (後固定用) (2個)	皿木ねじ (前固定用) (φ5.8×56:1本)
	化粧キャップ (前固定用) (1個)	木ねじ (後固定用) (2枚)
	ワッシャー (後固定用) (2枚)	木ねじ (後固定用) (φ4.8×90:2本)
掃除口ふた部品 (掃除口付きの場合)		
	パッキン (1個)	ボルト一体型止め金具 (1個)
		ふた本体 (1個)
		C形座金 (1枚)

使用工具 (別途ご準備ください)

六角棒スパナ(呼び径4)



別途発注部品

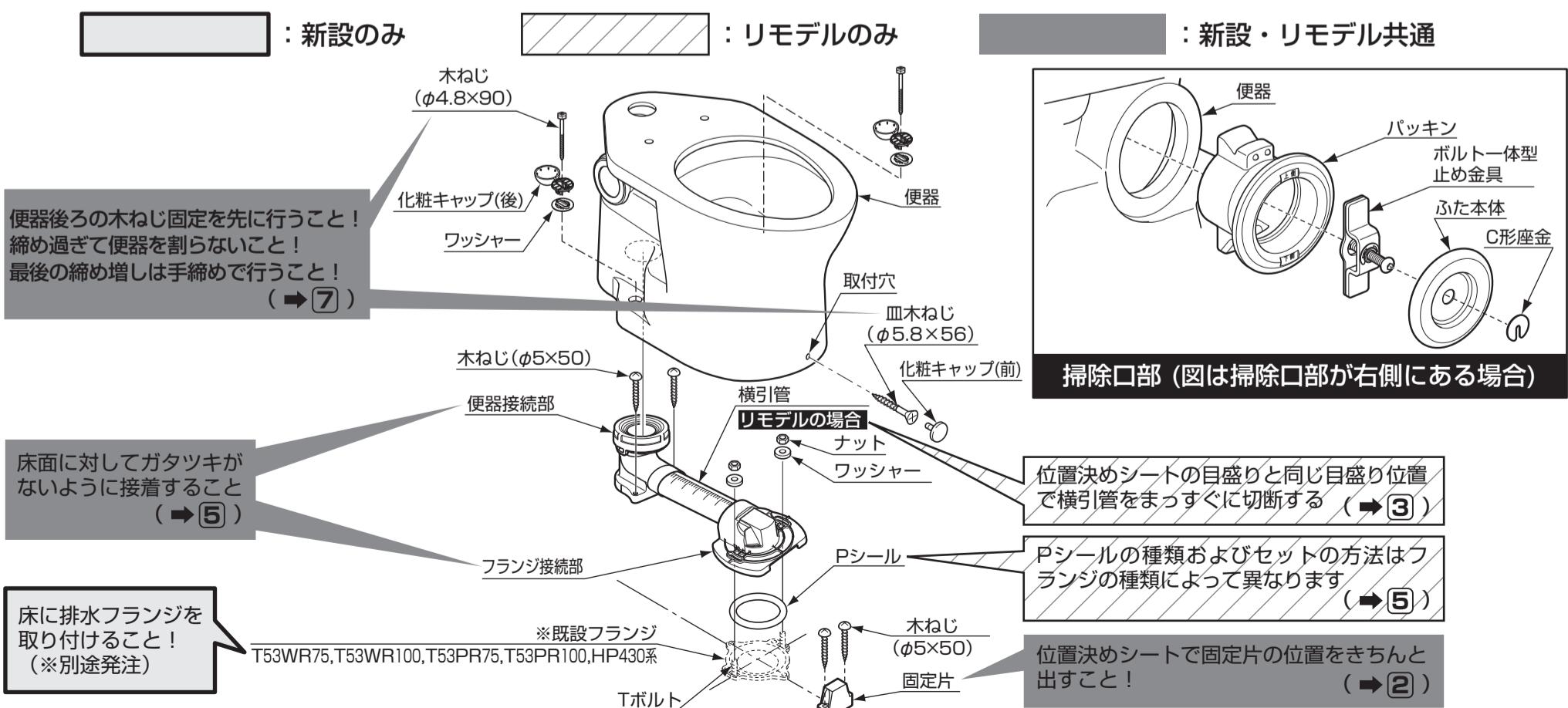
名称	品 番		備 考
	新設	リモデル	
排水フランジ (塩ビ配管用) ※1	HP430-1	—	VU・VP100用
排水フランジ (塩ビ配管用) ※1	HP430-7	—	VU・VP75用
排水フランジ (鉛管用) ※2	T53WR75	—	75mm排水管用

※1 排水管が塩ビ管の場合 ※2 排水管が鉛管の場合 ※3 床材がコンクリート・モルタルの場合

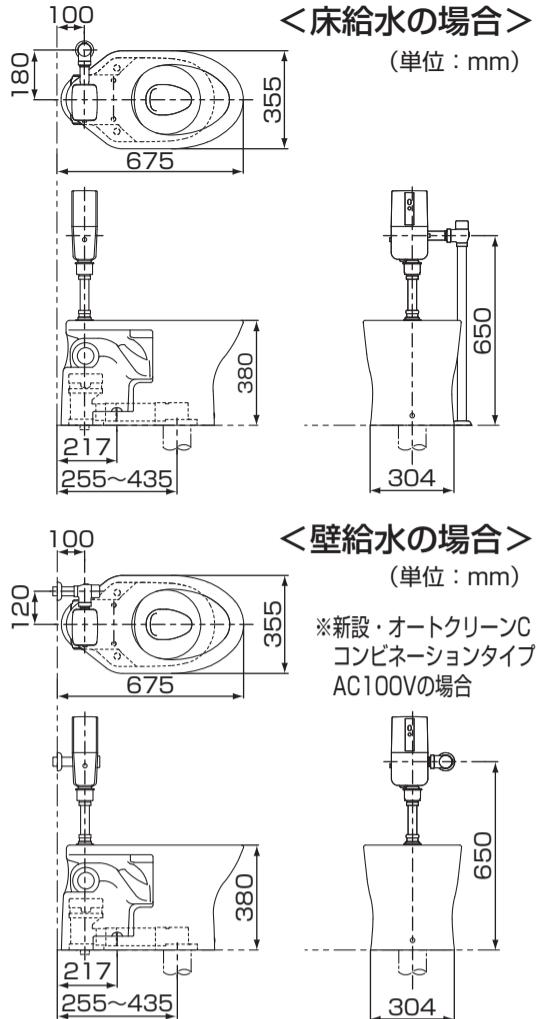
名称	品 番		備 考
	新設	リモデル	
排水フランジ (鉛管用) ※2	T53WR100	—	100mm排水管用
樹脂プラグ ※3	HH04060	—	φ8 (10個/1組)

※1 排水管が塩ビ管の場合 ※2 排水管が鉛管の場合 ※3 床材がコンクリート・モルタルの場合

各部のなまえと施工のポイント

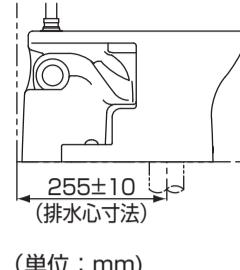


完成図



取り付け前のご注意

パブリック便器対応排水心 <新設 対応排水心>



(注) 排水管立ち上げ心が後壁から255mmの位置にあるか確認してください。
掃除口付きの場合はメンテナンスのために便器中心から横壁まで375mm(作業可能な最小寸法)以上の空間を設けてください。
なお、TOTOが推奨する標準寸法は400mmとなります。

<リモ델 取り替え対応可能排水心寸法>



施工前には、埋設されている給水配管などの破損を防止するため、位置を確認してください。
(注) 取り替え前の便器の排水心が255mm~435mmの範囲であることを確認してください。
掃除口付きの場合はメンテナンスのために便器中心から横壁まで375mm(作業可能な最小寸法)以上の空間を設けてください。
なお、TOTOが推奨する標準寸法は400mmとなります。

- 施工や運搬、清掃時に触れる可能性のある金属類は、陶器と接触しないようにしてください。
- 金属類が陶器表面をこすり、スジ状の跡が付くことがあります。
- 取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、ドアの開閉に支障がないことを確認してください。
- 施工前に給水管取り出し位置および排水管位置が所定の位置であることを確認してください。
- 所定の位置にない場合、商品が正しく取り付かないことがあります。
- 給水圧力は最低必要水圧0.05MPa(流動時)、最高水圧0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲でご使用ください。
- 商品への通電および通水は取り付け作業をすべて終えてから行ってください。
- 排水アジャスターを組み立てる際は、塩ビ用接着剤を周囲に十分塗布し、最後まできちんと押し込んでください。水漏れのおそれがあります。



- 排水心の確認
横引管を排水心にあわせて切断し、塩ビ接着剤で確実に接続してください。
※排水心255mmの場合、横引管は不要です。



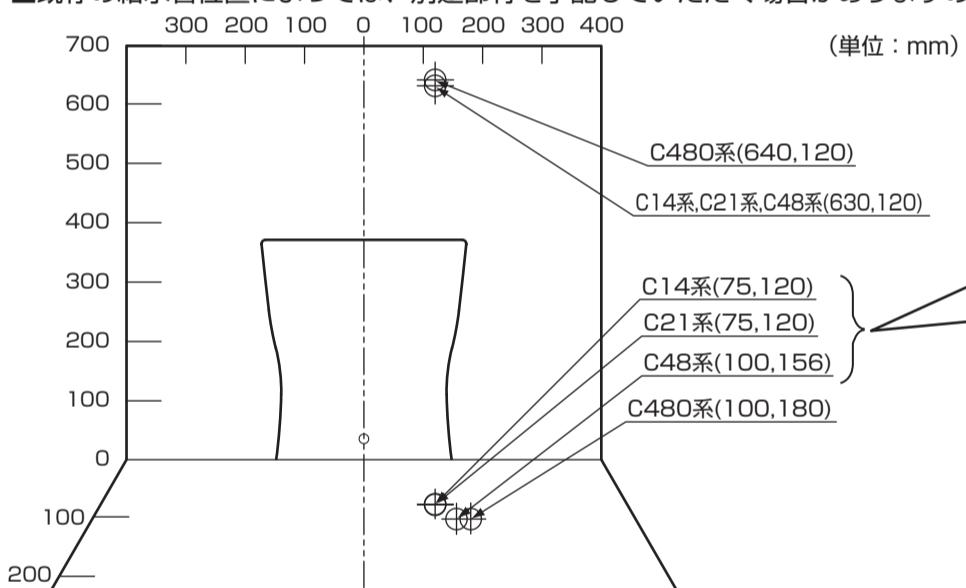
取り替え対応可能給水位置

リモ델の場合

■既存の給水管から便器中心線までの寸法によっては、取り付けできない場合があります。

便器と給水管が干渉する場合は、5ページを参考に施工してください。

■既存の給水管位置によっては、別途部材を手配していただく場合がありますので、下表をご確認ください。



※左側に給水位置がある場合は、フラッシュバルブを逆向きにセットすれば設置できます。

この位置からの取り替えの場合は、偏心洗浄管(25mm偏心)と心間調整連結管を別途現場手配し、ご使用いただけます。

		C14系、C21系からの取り替え用品番	C48系からの取り替え用品番
マニュアル フラッシュバルブ TV565/665/ 585型	偏心洗浄管 上水	TN129R	—
	再生水	TN129DR	—
オートクリーンC コンビネーションタイプ TEV30/40型	心間調整連結管 上水	THD59P120	THD59P160
	再生水	同上	同上
オートクリーンC コンビネーションタイプ TEV30/40型	偏心洗浄管 上水	TN129R	—
	再生水	TN129DR	—
	心間調整連結管 上水	THD59P120	THD59P140
	再生水	同上	同上

※偏心洗浄管は既設給水管がC14系、C21系の位置(推奨施工位置:後壁から75mm)の場合に使用できます。

※偏心洗浄管には給水ワン座金が同梱されています。既存の給水管位置により、フラッシュバルブに同梱の給水ワン座金が取り付けできない場合に使用してください。

取付方法

位置決めシートと床給水管が干渉しない場合の取付方法になります。
位置決めシートと床給水管が干渉する場合は5ページをご参照ください。

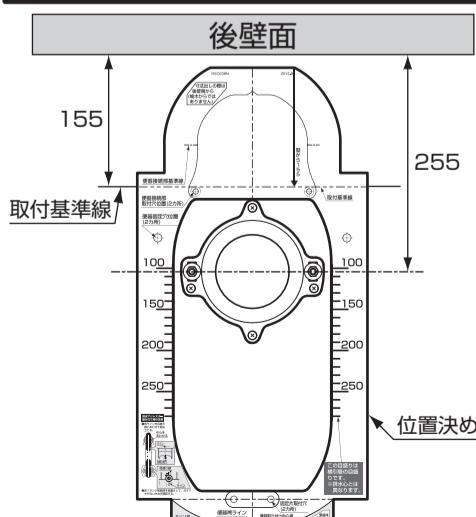
1 位置決めシートの位置決め

後壁面から取付基準線をあわせて、位置決めシートを置く。

※寸法出しの際は後壁側から(幅木からではありません)。

新設

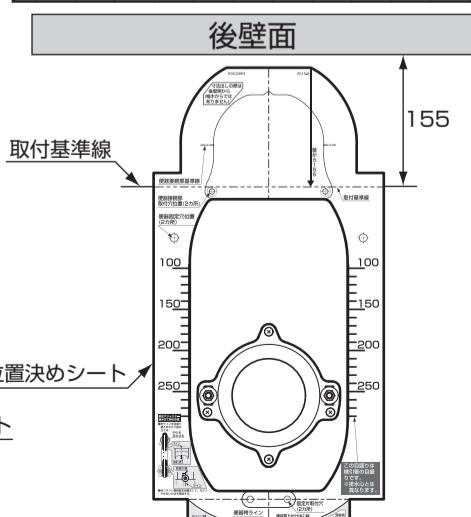
※床フランジの中心が、後壁から255mmの位置にあるか確認してください。
250mm以下の場合、便器が後壁に干渉し取り付けできません。



※取付基準線の位置決めは左右2カ所で行ってください。(単位: mm)

リモ델

※後壁面から取付基準線の寸法が155mm未満になると、便器が後壁面に干渉し、取り付かないおそれがあります。

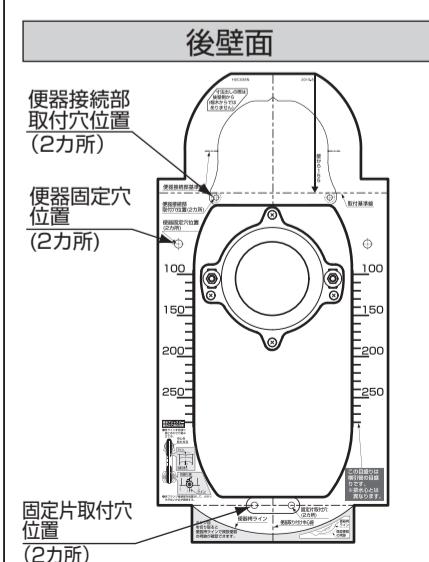


2 位置決めシートで取付穴位置をけがく

便器接続部取付穴位置、便器固定穴位置、および固定片取付穴位置(6カ所)をけがく。

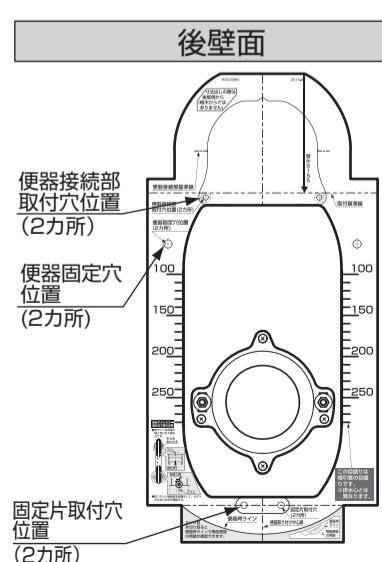
※φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。

新設



リモ델

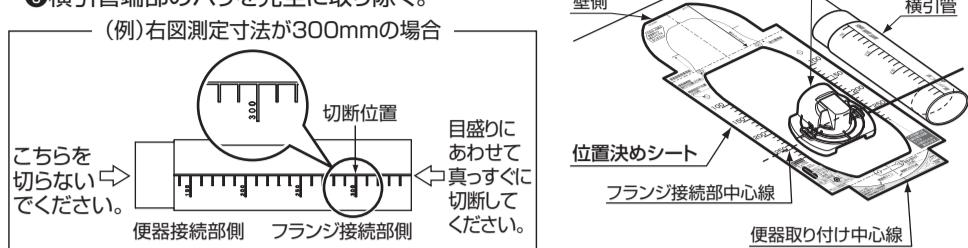
(単位: mm)



3 横引管の切断 リモデルの場合

※新設の場合はこの作業は不要ですので ④へ進んでください。

- ①既設フランジ中心線と床フランジ接続部中心線をあわせる。
- ②位置決めシートの目盛りと同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する。
- ③横引管端部のバリを取り除く。



4 排水アジャスターの組み立て

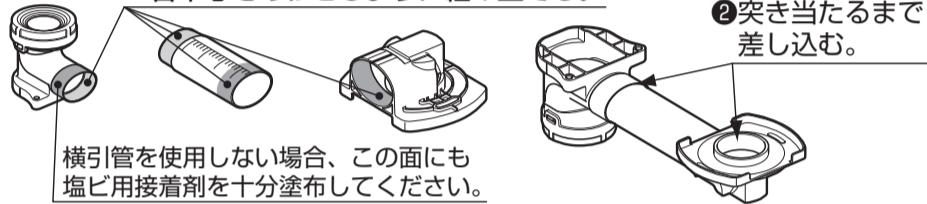
※新設の場合、横引管はありません。

△注意

- 必ず実行**
- 横引管は最後まで、きちんと押し込む
接着が不十分な場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。
床面に対してガタツキがないように接着する
ガタツキが大きいと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

●排水心255~435mmの場合

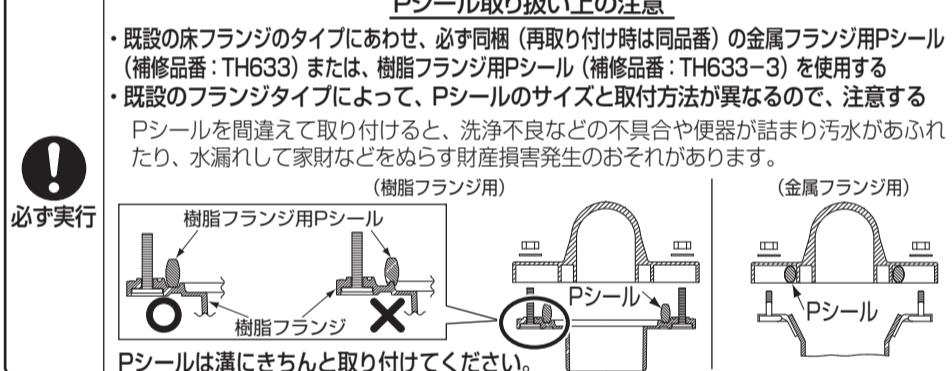
- ①塩ビ用接着剤を全周に十分塗布し、各中心をあわせるように組み立てる。



5 固定片・排水アジャスターの取り付け

△注意

- 禁止**
- 塩ビ管用床フランジ(HP430)同梱のゴムパッキン、白色パッキンは使用しないこと
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



- ①〈樹脂フランジの場合〉Pシール(樹脂フランジ用)をフランジにセットする。
〈金属フランジの場合〉Pシール(金属フランジ用)を排水アジャスターにセットする。
- ②排水アジャスターをフランジに押し付けてから、便器接続部の取付穴(2カ所)に木ねじを入れ、確実に締める。
- ③床フランジ接続部を、ワッシャー・ナットで既設フランジに固定する。
- ④固定片を所定の位置にあわせて、木ねじで床に固定する。

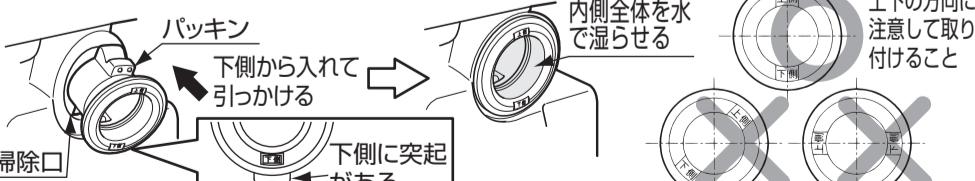


※気温が下がるとPシールが固くなることがあります。このときは、Pシールをあたためて柔らかくして使用してください。

6-1 掃除口の取り付け

<取り付けた>

- ①パッキンを掃除口に取り付ける。



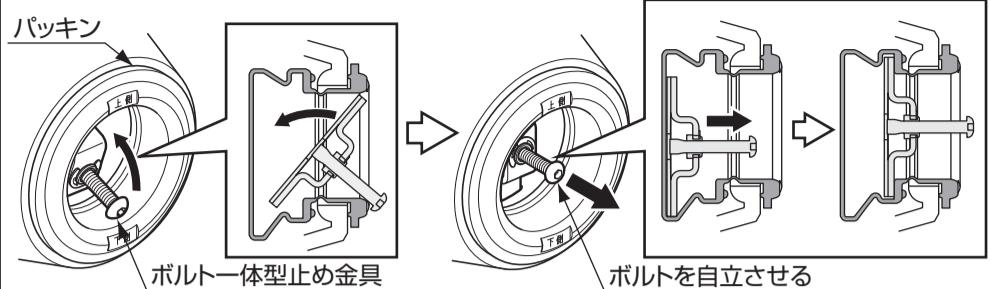
※パッキンの内側全体を水で湿らせると滑りやすくなり、施工が確実に行えます。

△注意

- 必ず実行**
- パッキンは必ず上下方向を確認して便器に取り付ける
誤った向きに取り付けると水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

6-2 掃除口の取り付け

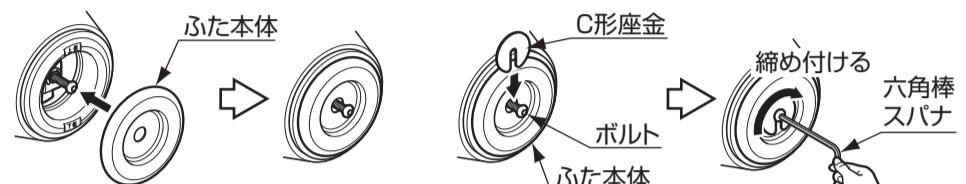
- ②ボルト一体型止め金具をパッキン内に挿入する。
- ③ボルトを持ち、手前に引くことで止め金具を自立させる。



- ④ボルト頭をふた本体の中心穴に通して、ふた本体を取り付ける。

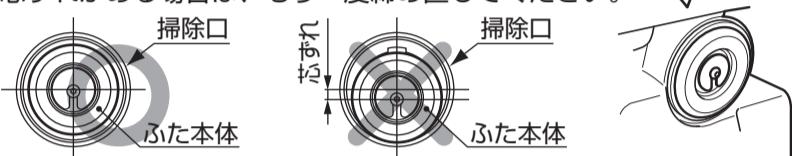
- ⑤C形座金をボルト頭とふた本体の間に入れ、ボルトを締め付ける。

※軽くボルトを締めてからC形座金を入れるとC形座金が脱落しにくくなります。



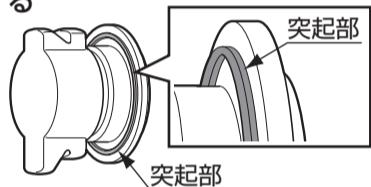
- ⑥ふた本体が確実に固定されているか確認する。

※芯ずれがある場合は、もう一度締め直してください。



△注意

- 必ず実行**
- ・必ずふたを確実に固定したことを確認したうえで、洗浄を行うようにする
 - ・必ずパッキンの突起部全周が半分以上つぶれるまで締め付けられているかを確認する



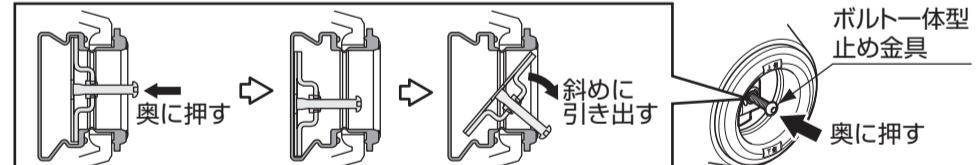
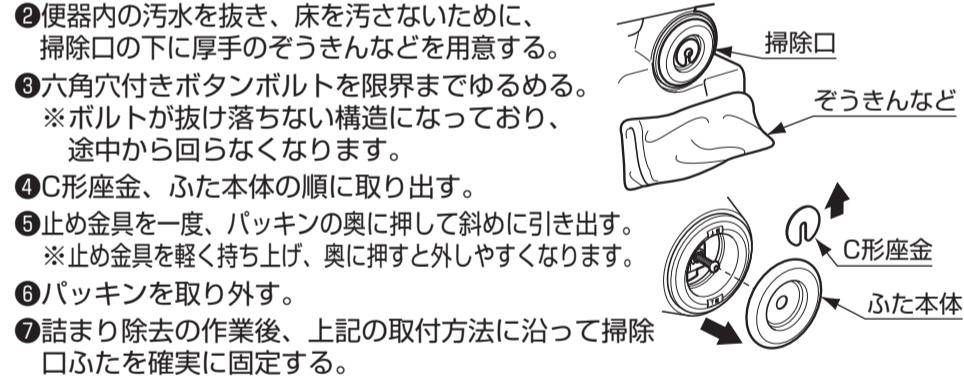
<取り外しかた>

△注意

- 必ず実行**
- 便器に異物が詰まり掃除口のふたを開ける際には、必ず便器内の汚水を抜いてから行う
汚水が掃除口部よりあふれ、床を汚すおそれがあります。

衛生面から作業前に必ずゴム手袋を着用ください。

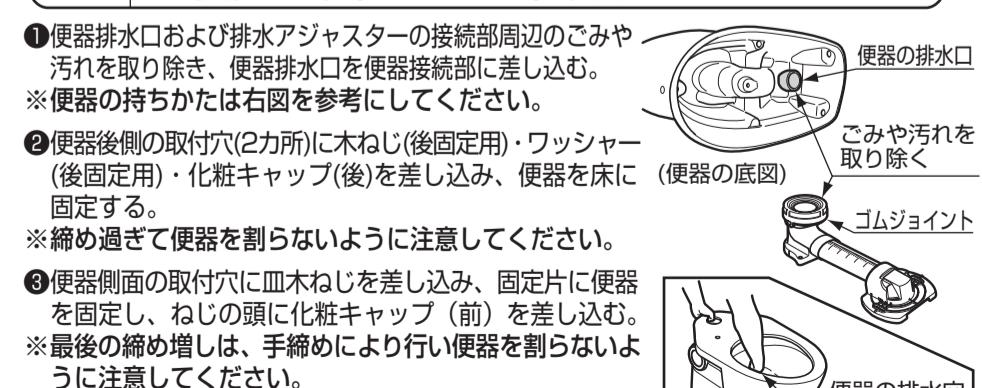
- 注** パッキンを取り外す際は必ず止め金具を取り出してください。
止め金具を取り付けたままパッキンを引き抜くと破損します。
ボルトを緩めるとC形座金が落下します。C形座金の紛失にご注意ください。



7-1 便器の取り付け

△注意

- 必ず実行**
- 便器後部の固定を必ず先に行う
前側の固定を先に行うと、便器が後方にスライドし、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



6-2 掃除口の取り付け

使用工具

六角棒スパナ(呼び径4)

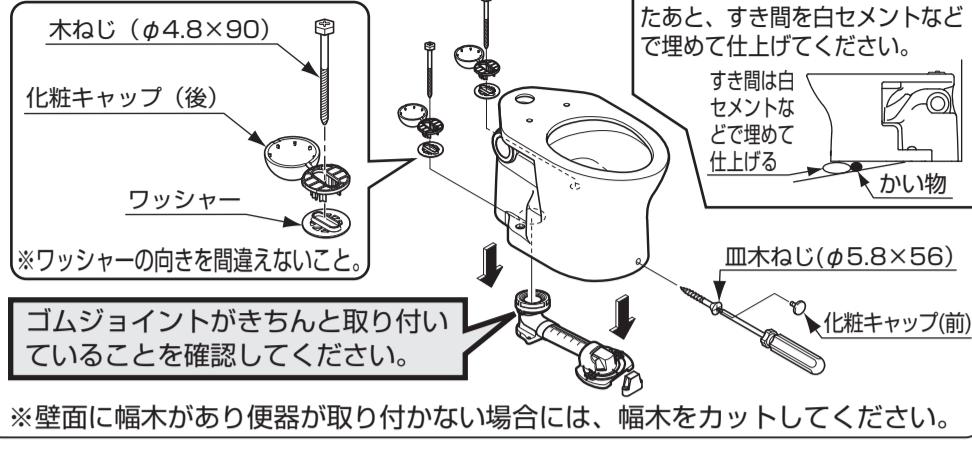


※パッキンの内側全体を水で湿らせると滑りやすくなり、施工が確実に行えます。

△注意

- 必ず実行**
- パッキンは必ず上下方向を確認して便器に取り付ける
誤った向きに取り付けると水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

7-2 便器の取り付け

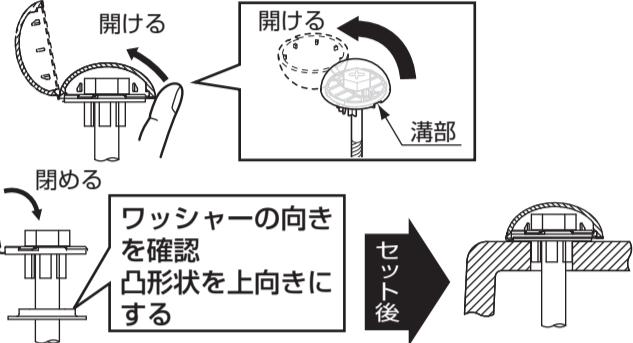


※壁面に幅木があり便器が取り付かない場合には、幅木をカットしてください。

8 化粧キャップ付きねじの固定

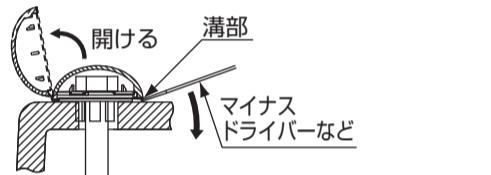
<取り付けかた>

- 化粧キャップを開け、木ねじを取り付ける。



<取り外しかた>

- マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップの溝部に差し込み、矢印の方向に押さえて開く。



フラッシュバルブと便器洗浄状態の調整

下図を参考に、フラッシュバルブの止水栓を回して、瞬間流量を調整する。

オートクリーンC (TEV型) の場合

オートクリーンC (TEV型) を取り付ける場合は、止水栓を全開にし、手動洗浄ボタンで水勢を確認してください。

注意

流動時の水圧が0.5Mpaを超える場合は、便器から水があふれたり、節水できないことがあります。

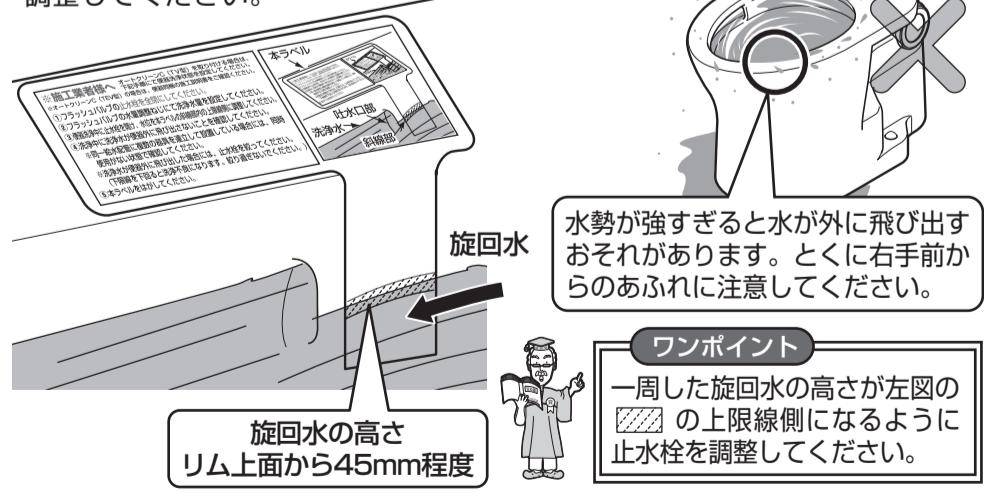
この場合のみ、一周した旋回水の高さがリム上面から45mm程度になるように止水栓開度を調整してください。



水勢が強すぎると水が外に飛び出します。とくに右手前からのあふれに注意してください。

オートクリーンC (TV型)・マニュアルフラッシュバルブの場合

オートクリーンC (TV型)・マニュアルフラッシュバルブを取り付ける場合は、ラベルを参照の上調整してください。



洗浄水量の切替方法

オートクリーンCの場合のみ

自治体によって洗浄水量の規制がある場合は、大洗浄4.8L・大洗浄6L、小洗浄4.8L・小洗浄3.6L仕様を右記水量に変更することができます。・大洗浄8L・小洗浄6L変更する場合は、フラッシュバルブ同梱の施工説明書をご確認ください。

9 フラッシュバルブの取り付け

△注意



給・排水接続部などからの水漏れ有無を確認するために施工後に便器洗浄を行うこと
便器洗浄を行わないと、給・排水接続部などから水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

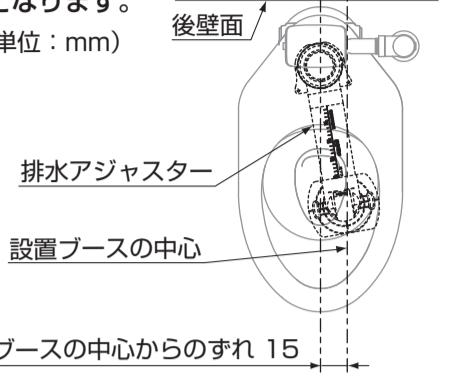
フラッシュバルブの取り付けに当たっては、フラッシュバルブ付属の施工説明書に従ってください。
※C14系、C21系床給水からの取り替えの場合は、給水管の立ち上げに専用給水ワン座金(偏心洗浄管に同梱)を使用してください。
※マニュアルフラッシュバルブは、止水栓の調整を必ず行ってください。

位置決めシートと床給水管が干渉する場合

排水アジャスターを傾けて取り付けることで、給水管と干渉せずに施工することができます。

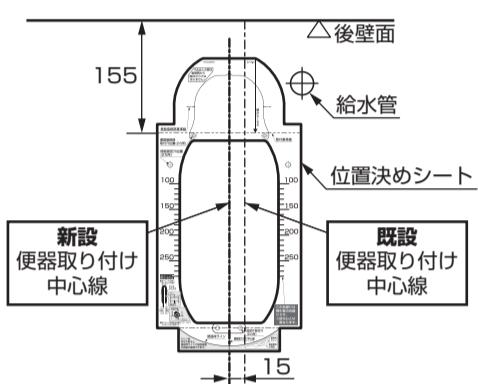
干渉する場合は、右図のような施工となります。

(単位: mm)



1 位置決めシートの位置決め

(単位: mm)



- ①給水管取り出し範囲に止水栓があることを確認する。
※給水位置が適切でないと、止水栓が商品に干渉することがありますので、ご注意ください。
- ②便器中心線を、給水取り出し位置とは反対側へ15mmずらした位置に中心線をけがく。
- ③けがいた中心線に、後壁面から155mmの位置に、位置決めシートの取付基準線をあわせて置く。

※取付基準線の位置決めは左右の2カ所で行ってください。

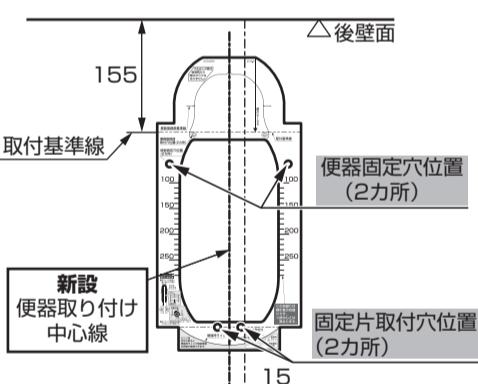
※後壁面から取付基準線の寸法が155mm未満になると、便器やタンクが後壁面に干渉し、取り付かないおそれがあります。

※寸法出しの際は後壁面から行ってください。(幅木からではありません)

2 位置決めシートで取付穴位置をけがく

位置決めシートと床給水管が干渉する場合の穴けがき位置(4カ所)

(単位: mm)

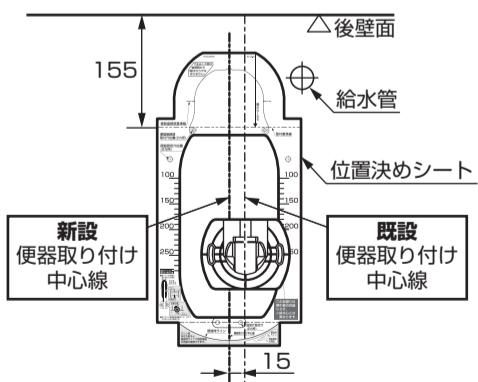


- ①固定片取付穴位置、便器固定穴位置をけがく。
※ここでは、便器接続部取付穴位置はけがかないでください。
- ②鉛筆など(あとで消せるもの)で便器取り付け中心線をけがく。
- ③けがいた取付穴位置にφ3程度の下穴をあける。
※φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。

3 フランジ接続部の仮置き

既設フランジの上にフランジ接続部を置く。

(単位: mm)



注 意

フランジ接続部の仮置きは、壁面に対し平行となるように置いてください。
傾けて置くと、横引管の切断が正確にできなくなります。

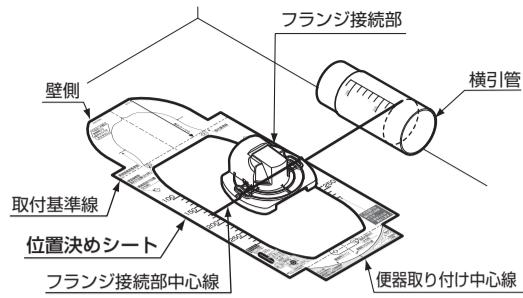
4 横引管の切断

(例) 右図測定寸法が250mmの場合

切断位置

目盛りにあわせて真っすぐに切断してください。

便器接続部側 フランジ接続部側



①既設フランジ中心線とフランジ接続部中心線をあわせる。

②位置決めシートの目盛りと同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する。

③横引管端部のバリを完全に取り除く。

5 排水アジャスターの組み立て

△注意

横引管は最後まで、きちんと押し込む

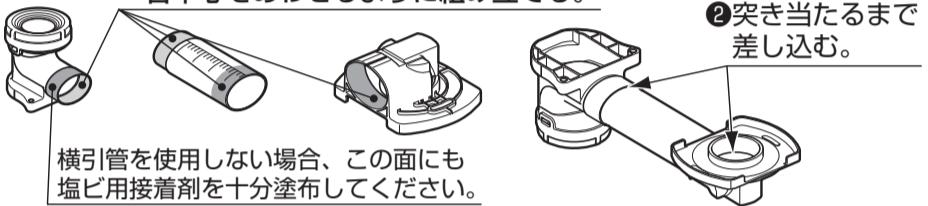
接着が不十分な場合、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

必ず実行

床面に対してガタツキがないように接着する

ガタツキが大きいと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。

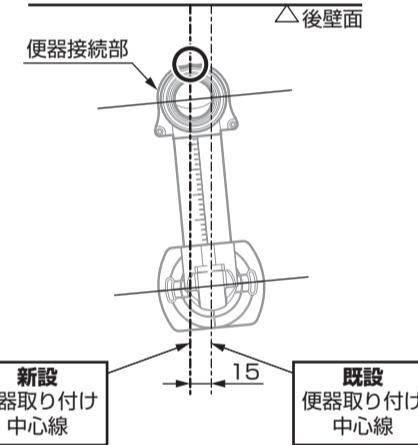
- ①塩ビ用接着剤を全周に十分塗布し、各中心をあわせるように組み立てる。



横引管を使用しない場合、この面にも塩ビ用接着剤を十分塗布してください。

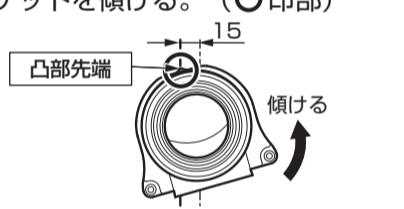
6 便器接続部取付穴位置をけがく

(単位: mm)



- ①排水アジャスターを排水管に仮置きする。

- ②便器接続部の台座後方中心(凸部先端)を新設便器取り付け中心線のラインと合う位置まで排水ソケットを傾ける。(○印部)



- ③便器接続部取付穴位置(2カ所)をけがく。
※鉛筆など(あとで消せるもの)で、便器接続部の取付穴を直接けがく。



以降の作業は、3ページ「取付方法 ⑤～⑨」に従って作業してください。